

2017（第14回）鹿沼市再発見観光写真コンクール

総評 公益社団法人 日本写真家協会会員 丹地敏明

2017 鹿沼市再発見観光写真コンクールは今回で14回目を迎え、益々盛んになり大変よろこばしく存じます。全体としてはユネスコ無形文化遺産に登録された「鹿沼今宮神社の屋台行事」が三分の程度もあり、非常に多い印象でした。反対に冬の写真作品が極端に少なかったことは「再発見観光写真コンクール」としては非常に残念な事だと思いました。また夏の写真作品もイベントだけではなく風景としても再発見してほしいと願っています。祭りでも風景でもそれぞれに意味や意義がある写真撮影を心がけてほしいと思います。インスタ映えという言葉が流行っていますが、そうした方向だけではない再発見があると思います。伝統的な行事もその意味を深く理解し考えれば、自ずと目の付け所が変化すると思います。上位に入賞した写真作品はその一枚一枚から様々な要素が読み取れると感じました。なお、今回の応募で非常に残念に思ったことが一つあります。応募規定には「銀塩プリントしたもの」とあります。素敵な写真作品なのに印刷などでの応募があったことは非常に悔しく残念に思いました。撮影時だけでなくコンクール応募などにおいてもルールがあることをしっかりと認識して下さい。従って応募規定外のものは入賞していませんので、この点についてはご了承ください。

今回も再発見し鹿沼市から発信できる写真作品を9名の審査員で選ばせていただきました。次回は第15回の節目を迎える鹿沼市再発見観光写真コンクールになります。どうか、鹿沼市の隅々から再発見していただき、多数の写真作品の応募を期待しています。

推薦 鹿沼市長賞「祭りの華 屋台一斉きりん」

一昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「鹿沼今宮神社の屋台行事」では、彫刻屋台の中心部分をジャッキで持ち上げ、その場で一斉にくるくると回転させることを「きりん」というのだそうです。動画で表すような世界ですが、一枚の写真作品でその様子が理解できるような素敵な撮影がなされていると思いました。昼間ではなく薄暮の撮影で色彩効果がよく雰囲気や情緒が印象的になっていると思います。

特選 鹿沼秋まつり実行委員会会長賞「伝統を守る」

彫刻屋台が周囲にあり、中心部に関係者が円陣を組んでいる様子は祭りが終了したあとの儀式手打ちでしょうか。構成が素晴らしくレンズの使い方などベテランの感じがします。欲を言えば中心部を少し明るめに現像することでより印象深い写真作品になったのではないかと思います。

特選 鹿沼市観光物産協会会長賞「鹿沼麻横綱白鵬関の綱」

鹿沼麻は有名ですがその生産量は毎年減少しているようです。神社のしめ縄に使われるということは聞いたことがありますが、横綱の化粧まわしの綱に使われていることを初めて知りました。これから大相撲の土俵入りを見るときに思い出して見方が変わるように思います。撮影がとても綺麗で丁寧な感じがします。作者は他にも独自の視点で多数の鹿沼市を再発見されており、見習う点が多いと思いました。

準特選 鹿沼市議会議長賞「四股ふんじゃった」

姫宮神社例祭で見られる鹿ノ入の獅子舞（天下一関白流獅子舞）の動作を、そのままの動感で撮りたいと思う作者の意思が表現されたと思います。今回は背景のことももう少し考慮に入れ、しゃがんだ状態などで撮影すると見物人の顔が獅子に隠れると思います。カメラポジションを少し変えるだけで美しい写真ができます。特にお祭りでは一瞬のことですから、予測しながら撮影することも大事な撮影技法です。

準特選 鹿沼商工会議所会頭賞「夜空に咲く華」

花火の写真作品は三、四点ありましたがこの写真作品が選ばれました。それは、構成と花火の形が良いことでした。いずれの花火も露出がオーバーで花火の色彩美が表現されていませんでした。デジタル写真ではオーバーな露出には色彩のデータが残らないため青・緑・赤・黄といったカラフルな色再現ができません。二度と同じものが撮れないのが写真です。RAWで撮影して現像でそのイメージを表現することがデジタル技法において大切であると思います。

準特選 粟野商工会会長賞「春風に乗る」

華やかな色彩の中で鯉のぼりが踊っています。魚眼レンズならではの効果が活かされた写真作品に仕上げられていると思います。少し気になるのはプリントの色彩に落ち着きがないところです。つまり、赤系統の色彩が分離して見えるところです。彩度を上げているのかプリント方法が違うのかは定かではありませんが、この辺りをもう少し見ていただければより良い作品となりました。

準特選 鹿沼市教育長賞「スタートダッシュ」

鹿沼さつきマラソンのスタート状況を素晴らしいタイミングで残しました。特に左のランナーのスタイルがこの写真作品を魅力的にしていると思います。このような写真撮影ではカメラポジションが非常に大切で、作者は準備万端でこの瞬間を待っていたような臨場感があります。作者の思い通りの仕上がりになっているのだらうと思いました。

準特選 鹿沼市再発見観光写真コンクール審査委員長賞「岩山が見た夢」

この岩山に夕日が当たると綺麗だろうといつも思っていました、ここに虹が出ましたか。しかもダブルで。同様の写真が多数ありましたがダブルにはかないませんでした。構成が素晴らしいと思います。撮影中にも濡れた可能性がある虹の出方ですが、いつもは見られない光景を残すことは写真撮影の魅力であり大いに意味のあることです。

準特選 栃木県カメラ商組合長賞「祭りの余興」

赤鬼退治をおかめ・ひょつとこがするという楽しくて滑稽な感じがよく出ていると思います。見たことはありませんが、ひょつとこが赤鬼にお酒を進め酔いつぶれたところで鬼を退治するという物語かなと推測できる感じがします。背景が黒くて赤鬼、おかめ、ひょつとこが印象的になるよう配置に構成したところが魅力です。

準特選 鹿沼ケーブルテレビ賞「桜逍遙」

遠近感のある写真作品です。縦位置で撮影した意図が理解できます。そこには、春の空気が漂う春爛漫の雰囲気に加え、おとぎ電車に乗って見たいと思わせる旅情も作者の狙いであり素敵な感覚です。左上から桜を被せたところに華やかさが加わっていると思いました。